



POLICY MAKERS

Policy makers lab 内における医療・ヘルスケア分野ワーキンググループの形成について

Author: 植野 剛、医療・ヘルスケア分野ワーキンググループ

LAB



Policy makers lab Managing partner

植野 剛 Ueno Go

PROFILE

2008年、京都大学医学部医学科卒。医師免許取得後、心臓血管外科医師として、医療を幅広く真摯に学び、診療、学術・研究、教育に没頭。同時に、病院情報システム・重症管理システムの導入・管理、診療科データベース構築、クリニカルパス作成・運用、逆紹介の積極的推進による外来業務効率化・患者満足度向上、病診連携・病病連携の強化等による、臨床業務の効率化、病院の収益率向上にも寄与。そのような中、臨床現場における数々の非効率性や制度上の問題等への課題感が増大。それら課題に対処すべく、①医療機器・ヘルステック企業でDXを含むソリューションによる直接的な効率改善、②Policy makers labで政策立案・発信による制度面からの改善、という両輪を回し、日本の医療の更なる発展・持続可能性向上を通じ、医師の本分である「公衆衛生の向上及び増進への寄与」「国民の健康な生活の確保」に取り組んでいる。

要旨

1. 医療・ヘルスケア分野ワーキンググループ（WG）形成の経緯

政策立案の「梁山泊」を目指す Policy makers lab (PML) では、これまで、医療・ヘルスケア分野に関する政策案も多く挙がり、現場における課題の多さが再認識されつつある。その中で、単に個別的な政策案の集合に留まらぬよう、当該分野関連政策案の取りまとめや実践に向けたサポート、将来的に想定される「未来の医療のあるべき姿」のグランドデザインの策定等を視野に、医療・ヘルスケア分野ワーキンググループ（WG）を形成した。

2. メンバー

当WGは、医師や看護師、臨床工学技士等の医療系資格を有する者や、医療・ヘルスケア関連分野における実務経験豊富な者など、多種多様なメンバーにより構成されている。

3. 当WGの目的

PML事務局及びWGメンバーと協議の上、当WGの目的としては、①PML内における医療・ヘルスケア分野の政策案のラインナップの充実（分野全体の政策デザイン）、②医療・ヘルスケア分野の各政策案の実践に向けた情報提供やサポート（各政策の深化）、の2つの方向性を共に軸とし、活動を行うこととした。

4. 当WGの活動内容

上記の2つの目的を達成すべく、まずはこれまでにPMLメンバーが立案した政策案の分類・マッピングを行い、整理した。また、各政策の進め方につき、PML事務局との連携のもと、関連省庁・部局を含む各ステークホルダーとの情報共有・提言・議論、更には既存もしくは現在進行中の政策についての勉強会の開催等を通じ、活動を行っている。

5. 当WGの今後

当WGとしては、政策立案の「梁山泊」を目指すPML内にあって、更に医療・ヘルスケア分野に特化した言わば「梁山泊内梁山泊」のような存在を目指しており、熱い想いを持った優秀な同志が不可欠である。医療やヘルスケアの領域において、自らの現場の現状につき課題感を有している方、そしてそれを政策という側面から解決することに興味のある方は、是非PML、そして当WGの門を叩いてみて頂き、共に歩むことができるなら、我々にとってこの上ない喜びである。

目次

1	経緯	05
----------	-----------	-----------

2	メンバー	05
----------	-------------	-----------

3	当 WG の目的	07
----------	-----------------	-----------

4	当 WG の活動内容	08
----------	-------------------	-----------

4.1.	PML におけるこれまでの医療・ヘルスケア関連政策案の整理	08
4.1.1.	医療・ヘルスケア分野における課題の大小・多寡の推定	10
4.1.2.	PML, また当 WG としての「未来の医療のあるべき姿」のような グランドデザインのあぶり出し	10
4.1.3.	PML, また当 WG として議論が欠如・不足している領域・項目の あぶり出し	10
4.1.4.	これまで医療・ヘルスケア分野と接点がなかった方への医療課 題・政策への興味喚起	10
4.2.	各政策案の深化に向けた動き	11
4.2.1.	各政策案の実現に向けた動き	11
4.2.1.1.	各政策案の進め方についての事務局との連携	11
4.2.1.2.	各ステークホルダー・関連省庁・部局との情報共有・提言・議論	11
4.2.2.	政策勉強会	11

5	当 WG の今後	12
----------	-----------------	-----------

	参考文献	13
--	-------------	-----------

Policy makers lab内における医療・ヘルスケア分野ワーキンググループの形成について

1. 経緯

2021年5月、政策立案の「梁山泊」を目指すべく、官民の若手有志が問題意識を共有し、政策案を議論する任意団体として、福岡 功慶 代表、坂本 雅純 副代表のもと、Policy makers lab (PML) が設立された。

第1期（2021年7～12月）には3名、第2期（2022年1～6月）には5名と、医療・ヘルスケア分野に関する政策案の議論も比較的多く、やはり当分野における現場での課題の多さが再認識された。

その中で、PML の成り立ちからも、単に個別的な政策案の集合に留まってしまわないよう、PML としての医療・ヘルスケア分野関連政策案の取りまとめや各政策案の実践に向けた活動のサポートの必要性、更には後々 PML としての「未来の医療のあるべき姿」のようなグランドデザインを描くこと等も想定されることから、医療・ヘルスケア分野ワーキンググループ（WG）を形成することとした。

2. メンバー

2022年9月時点における、医療・ヘルスケア分野 WG のメンバーは表1の通りである。

当WGは、医師や看護師、臨床工学技士等の医療系資格を有する者や、医療・ヘルスケア関連分野における経験豊富な者など、多種多様なメンバーにより構成されており、一側面からではなく、あらゆる角度・視点からの意見が得られる貴重な場となっている。

表1 2022年9月時点における、医療・ヘルスケア分野 WG のメンバー

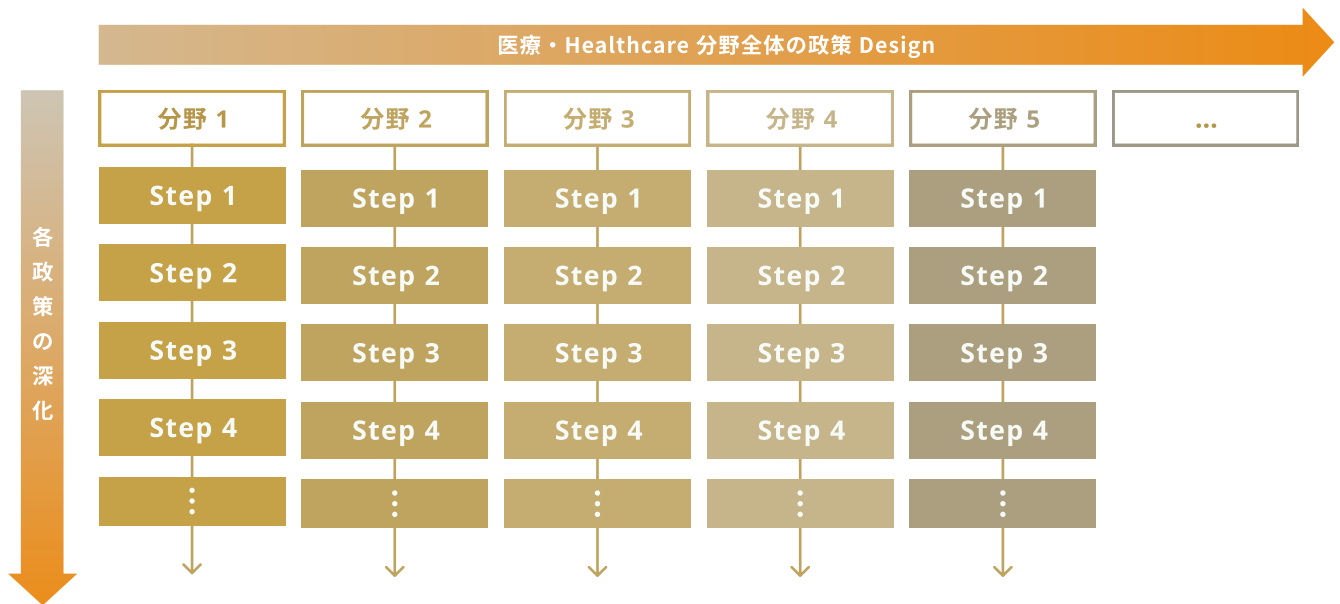
PML 内における role	氏名 (敬称略)	背景・略歴
Managing partner	植野 剛	医師。13年余の心臓血管外科医師経験を経て、現在は外資系医療機器・ヘルステック企業に勤務。
Managing partner	野口 昌克	博士(生命科学)。 外資系医薬品・医療機器企業マーケティングを経て、現在は医療機器ベンチャー企業に勤務。
Research fellow	平山 貴一	救急医。フィールド医学教室にて、ブータンでのJICA事業にも関わる。 関心は世代間継承、ソーシャルサポート。
Research fellow	松川 智彦	臨床工学技士。病院設備・院内物流企業を経て、現在は外資系医療機器メーカーに勤務。
Research fellow	宮脇 大	循環器内科医。 心臓移植を要する患者の診療・研究に従事。 現在は起業し、働く世代の健康をサポートする。
Alumni (salon member)	布村 彰宏	学習塾で5年間勤務ののち、30歳でIT業界に転身。 現在はDB基盤の構築と運用のプロジェクトに参画中。
Alumni (salon member)	丸山 恵実	ヘルステック系のベンチャー企業に勤務。 調剤薬局のDX推進や経営支援を行う。
Research member	小澤 茉祐	看護師、キャリアコンサルタント。 混合病棟勤務を経て、現在は看護系職能団体に勤務、看護職の生涯学習に携わる。
Research member	佐藤 乃理子	医師。行政職、マネジメントを経験し、現在は産業医。檜原村にてキャンプ場を運営中。
Research member	中村 健一	医師。7年間外科医として勤務した後に 国立研究機関で16年間、臨床研究、治験の企画、運営を担う。

3. 当 WG の目的

WG 形成後、上記メンバーにも改めてヒアリングを行ったところ、大別すると、

1. 分野全体の政策デザイン：PML 内における医療・ヘルスケア分野の政策案のラインナップの充実
 2. 各政策の深化：医療・ヘルスケア分野の各政策案の実践に向けた情報提供やサポート
- の2つの方向性につき、メンバーが WG に期待していることが判明した（図1）。

図1 医療・ヘルスケア WG の目的の2つの方向性



事務局とも協議の上、医療・ヘルスケア分野 WG としては、上記2つの方向性を共に目的の軸とし、活動を行うこととした。

4. 当 WG の活動内容

4.1. PML におけるこれまでの医療・ヘルスケア関連政策案の整理

主に前述の当 WG の目的①「PML 内における医療・ヘルスケア分野の政策案のラインナップの充実」に資するため、まずはこれまでにメンバーが立案した政策案の分類・マッピングを行った（表2）。なお、政策の分類については、日本医療政策機構（Health and Global Policy Institute: HGPI）が開設・運営を行っている、Japan Health Policy NOW (JHPN) のウェブサイトを参考に、我々の WG 内で更なる改変を加えたものとなっている。

この政策案マップを今後も継続的に更新していくことにより、PML 内における医療・ヘルスケア分野の政策案の全体像と分布の可視化が達成され、更に以下のような効果もたらされるものと考えている。

表2 これまでに PML メンバーが立案した政策案の分類・マッピング

大分類	項目	第1期	第2期	第3期
		2021	2022	
		H2	H1	H2
医療保険制度	医療保険制度			
	介護保険制度			
	民間保険制度			
医療提供体制	医療施設、病床の類型			
	薬局			
	医療従事者数			
	医療従事者の資質向上			
	医療従事者の働き方改革			
	救急医療提供体制の整備等			
	地域における医療提供体制の整備等			
	遠隔医療			
医薬品・医療材料	新医薬品			
	後発医薬品			
	一般医薬品			
	医療機器			
医薬費・経営	医療費等の動向			
	診療報酬制度			
	医療機関の経営状況			
	医療費適正化計画			
	保険者による予防・健康づくりの推進			

平山

高齢者を支援する側の地域包括支援センターを支援するプラットフォーム形成³⁾

Research member

日本の社会保障政策を支える公的保険外の民間事業化の推進

丸山

調剤薬局が薬物治療のハブとなるためのDX化推進等による投資戦略の提言

小澤

看護職のキャリア支援

植野

医師のオンコール待機の取り扱いの明確化¹⁾

Research member

夜間の救急車有料化(+夜間は若手医師が現場勤務)

中村

オンライン診療

野口

医療機器スタートアップの創出・医療機器産業の育成促進に向けた規制緩和²⁾

松川

医療機器供給の安定化と有事対応に向けた政策提案⁴⁾

宮脇

医師の視点で考える健康経営2.0⁵⁾

4.1.1. 医療・ヘルスケア分野における課題の大小・多寡の推定

PMLは大前提として、各人それぞれの現場における課題感に立脚した政策案を立案することをスタート地点としている。

そのように、PML側からメンバーにテーマや内容について要請・依頼をして出来上がってきたものではなく、メンバー各人の現場側からの自発的な課題感に立脚した政策案が、医療・ヘルスケア分野の中で今後どのように分布していくのかをWGで可視化することにより、各分野における課題の大小・多寡を推定できるようになってゆく可能性がある。

4.1.2. PML, また当 WG としての「未来の医療のあるべき姿」のようなグランドデザインのあぶり出し

上記 4.1.1. の推定と並行して、単に各人のある種個別的な政策案の集合に留まらず、PML, また当 WG としての「未来の医療のあるべき姿」のようなグランドデザインがある種自然とあぶり出され、湧き上がる形で形成できる可能性についても期待をしている。

4.1.3. PML, また当 WG として議論が欠如・不足している領域・項目のあぶり出し

今後、政策マップを改めて眺めた際、本来であれば議論されるべき分野・項目において、これまで PML 内では全く議論がなされてきていない、もしくは議論はされているもののグランドデザインを描くには不足している、という領域・項目の発見につなげる。また、その特定分野・項目に課題感を有し、政策案の議論・作成に興味を抱いて頂けそうな方に、PML の方から協力・参加をお声掛けする、といったようなことも想定される。

4.1.4. これまで医療・ヘルスケア分野と接点がなかった方への医療課題・政策への興味喚起

これまで医療・ヘルスケア分野との接点があり無かったメンバーからは、「そもそもそれぞれの政策案が医療・ヘルスケアという全体像の中でどのような位置付けとなるのか」や「それぞれの政策案間にどのような相関関係があり、どこに協力の可能性があるのか」、また「それら政策案が立脚している元の課題に対して、他業種からの協力・参入の可能性はあるのか」等が分かりにくい、という声があった。

これを受け、それらの疑問への回答としての側面、またこれまで医療・ヘルスケア分野に興味の乏しかったメンバーにも医療課題・政策への一種の興味喚起にもなると期待をしている。

4.2. 各政策案の深化に向けた動き

次に、前述の当 WG の目的②「医療・ヘルスケア分野の各政策案の実践に向けた情報提供やサポート」に資するため、以下のような取組を開始・実行している。

4.2.1. 各政策案の実現に向けた動き

4.2.1.1. 各政策案の進め方についての事務局との連携

PML における Research member としての活動は、自らの現場における課題感に根差した政策案を、議論を経て練り上げ、政策紙としてまとめる、というところまでとなる。

しかし、せっかく政策紙にまでまとめ上げたものを、更にそこから実践・実現に向けて動かし始めたい、というニーズは確実にある。

その中で、当然政策案毎に、今後どのようなステークホルダー（担当省庁・部局も含めて）との対話・調整が必要となって来るかは異なるため、その支援の方法も含め、PML 事務局と密に連携し、議論を重ねた上で、その結果を各政策案の立案者にフィードバックしている。

4.2.1.2. 各ステークホルダー・関連省庁・部局との情報共有・提言・議論

上記事務局との連携を経た、各政策案に望ましいと思われる進め方について、立案者へのフィードバックのみに留まらず、各ステークホルダー・関連省庁・部局との情報共有・提言・議論を実際に行う所まで、WG として伴走を行っている。

4.2.2. 政策勉強会

前項の、各政策案の実現に向けた個別的な動きのみならず、PML 外で実際に過去に実現した、もしくは現在進行中の政策・政策案についても、参考になる知見を共有することを目的として勉強会を行っている。

5. 当 WG の今後

以上、当 WG の形成の経緯・メンバー構成・目的・活動内容について述べてきたが、今後についても少し触れておきたい。

まず、当 WG としては、政策立案の「梁山泊」を目指す PML 内であって、更に医療・ヘルスケア分野に特化した言わば「梁山泊内梁山泊」のような存在を目指している。「梁山泊」にも「梁山泊内梁山泊」にも、当然熱い想いを持った優秀な同志が不可欠である。医療やヘルスケアの領域において、自らの現場の現状について課題感を有している方、そしてそれを政策という側面から解決してみたい、あるいは解決できるのかどうかを知りたい・学びたい、という方は、是非 PML, そして我々医療・ヘルスケア分野 WG の門を叩いてみて頂きたい。

まずは、一步を踏み出してみるところから「やってみる」ということを大切に頂き、共に歩むことができるなら、我々にとってこの上ない喜びである。

参考文献

- 1) 植野剛. 医師のオンコール待機の取り扱いの明確化. Policy makers lab Journal. 2022; 1: 42-62.
- 2) 野口昌克. 医療機器スタートアップの創出・医療機器産業の育成促進に向けた規制緩和. Policy makers lab Journal. 2022; 1: 63-88.
- 3) 平山貴一. 地域包括支援センターの持続的な成長戦略 支援側を支援するプラットフォーム形成. Policy makers lab Journal. 2022; 2: 34-50.
- 4) 松川智彦. 医療機器供給の安定化と有事対応に向けた政策提案. Policy makers lab Journal. 2022; 2: 15-33.
- 5) 宮脇大. 医師の視点で考える健康経営2.0. Policy makers lab Journal. 2022; 2: 51-64.



Policy makers lab

Planting seeds for the better future

POLICY

MAKERS



LAB